

# 市の考えを問う 一般質問

12月10日・11日・12日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



**Q** 今後4年間の市の運営と方向性

齊藤 芳久 議員

**A** 市民本位の市政運営を推進する



ことを、市が周辺地域整備の在り方に関することを、という役割分担の下、農業大学の跡地活用に関して一体的に検討が進められるよう、同一の専門業者に委託を行い、基本的な考え方の整理、取りまとめを行っている。

**質問一** 水土里の交流圏構想の進捗について。

二 地域支え合いの目標は。

三 健康のためのスポーツ施設の充実について。

四 市民のための便利な市役所窓口について。

**答弁一（市長）** 県が農業大学校跡地内の産業系土地利用や市民利用施設などに係る方向性に関する

二 急速に高齢化が進む本市にとって、共に支えあう仕組みづくりは、重要かつ喫緊の課題である。おおむね小学校単位での設置を予定しているが、各地域の状況を勘案しながら、できるだけ早い時期に設置できるよう働きかけていく。

三 農業大学の跡地活用と運動公園第2期整備計画と連動させて、計画的に整備していく。

四 社会保障・税番号制度への対応を市役所業務の変革の大きなチャンスと捉え、行政改革の視点から、総合窓口の開設も含め、あらゆる業務の見直しを行う。

**Q** 褒める教育で、より良い人格形成を

杉田 恭之 議員



**A** 良さを認め、励ますことで自己価値観を育む

**質問一** 褒める教育の有効性についての認識は。

二 発達段階に応じた指導方法は。

三 義務教育段階での褒めて育てる教育の有効性は。

**答弁一（教育委員長）** 今、褒めることが見直されている。褒められることで自分の長所や可能性に気付かされ、その後の人生に良い影響を与えることもある。このような考え方は社会教育、企業教育等にも当てはまる。

二 例えば小学校の低学年では座り方や学習態度を、中学年では解答に至るまでの試行錯誤を繰り返す姿勢を、高学年では自分の考え方を伝える態度などについて、時期を捉える確に褒める。

児童同士が互いを認め合う中で、豊かな人間性の育成につながる。

三 学校教育の中で褒めることは、教師と子どもの信頼関係の構築で

あり、教育の原点である。褒められる子どもが増えると、児童生徒同士に互いに褒め合う関係が生まれる。このことが集団としてのまとまりとなり、生活や学習が効果的に展開できるようになる。

**◎その他の質問** 学校運営における予備費について

